

血液内科

自己紹介

令和6年4月より若草第一病院血液内科に赴任致しました
高桑 輝人 (たかくわ てるひと)
と申します。このたび岡山医師と2人で大阪公立大学より
参りました。若弘会グループとは深い御縁があり、東大阪市、
中河内地区で血液診療をさせて頂けることを光栄に思います。
血液疾患患者様の健康と健やかな人生に貢献し、頼りに
される血液内科を目指して粉骨砕身尽力して参りますので、
何卒、宜しくお願い申し上げます。



●血液内科って何をしているの？

血液疾患は赤血球系、白血球系、血小板系、凝固系に大別されます。健康診断で血液の数値が異常と言われた、身に覚えのない出血が多い等があれば血液内科の出番です。

●たかが鉄欠乏性貧血、されど鉄欠乏性貧血

貧血の原因として最も頻度が高いのは鉄欠乏性貧血で、妊娠可能年齢の女性であれば4-5人に1人は罹患しています。鉄分不足のために一般的には赤血球が小型になっておりますので、診断は難しくありません。しかし、鉄分を補充し続けても改善しない場合や男性および高齢者の鉄欠乏性貧血は、背景に重大な病気が潜んでいる可能性がありますので、血液内科に御相談下さい。高齢者の貧血では3割弱で背景に悪性疾患が潜んでいることが知られていますので注意が必要です。

鉄欠乏性貧血
のPoint

鉄分不足で赤血球が小型化
※男性、閉経後女性の鉄欠乏性貧血には要注意

●慌てない？慌てる？血小板減少

血小板減少は貧血の次によく相談を受ける血液異常ですが、なかでも最も頻度が多いのが免疫性(特発性)血小板減少性紫斑病しはんです。この病気は自己抗体による血小板の破壊こうしん亢進または産生障害が原因です。突然、血小板の数が少ないと言われた、身に覚えはないけど、足に点状の出血が出現した、等の場合は血液内科に御相談下さい。似たような名称で血栓性血小板減少性紫斑病がありますが、こちらは血漿交換けっしょうなどを要する超緊急疾患になりますので、緊急入院が必要となります。

免疫性血小板
減少性紫斑病
のPoint

白血球 →
赤血球 →
血小板 ↓

●白血球の異常は血液内科にお任せあれ

血液異常の中で最も難しいのが白血球の異常です。白血球は悪性疾患以外にも感染症、膠原病こうげんびょう、薬剤等様々な要因で増加、減少します。通常は白血球の内訳を機械で自動カウントすることが多いですが、血液内科では血液を顕微鏡で見て、どの種類の白血球が異常なのか、通常はみられない異常細胞がないか等検討します。原因不明の白血球数増加や、白血球数高値・低値が継続する場合は気軽に血液内科に御相談下さい。

白血球異常
のPoint

よく分からない白血球 ↓ or ↑
→気軽に御相談ください。



私たちは地域に密着した血液内科を目指しております。少しでもご不安なことがあれば、一度血液内科の受診をご検討ください。